

第 98 回 学長選考・監察会議議事概要

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 21 日（火）15 時 50 分～16 時 50 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 三輪委員，伊藤委員，小田委員，佐久間委員，森委員，
柴田委員，鈴木委員，佐藤委員，小野寺委員 以上 9 名
＊オブザーバー：岡監事，赤塚監事

4 議事概要の確認

第 97 回学長選考・監察会議議事概要が確認され，承認された。

5 議事

（1）学長の業務執行状況の確認について

牛木学長の就任 5 年目（令和 6 年 2 月～令和 7 年 1 月）の業務執行状況の確認について，監事からの意見聴取，学長との面談を行い，質疑・意見交換が行われた。その後の総括審議については継続審議とし，更に意見がある場合は 2 月中旬を目途に文書にて事務局に送付することの提案があり，承認された。

（主な意見及び質疑等 ○：委員の発言，■：牛木学長の発言）

- ・就任 5 年目の令和 6 年 2 月から令和 7 年 1 月までにおける重点課題・重視した取組についての成果と課題について伺いたい。
- ・大学全体の柱を教育，研究，社会との共創と考え進めてきた。
 - ・教育については，メジャー・マイナー制を進めて，入学者の 3 分の 1 が履修するという目標を今年達成できた。また，大学院改組については，1 研究科にする融合大学院構想をまとめ，総合知を養う博士課程を作るという計画がおおむね学内のコンセンサスが得られ，文部科学省との折衝も大詰めを迎えている。
 - ・研究については，昨年度不採択だった文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の採択を目指し，あらゆる情報収集，試みを行った上で申請した。ヒアリングも終え，近日中に結果が出る予定である。
 - ・社会との共創については，地域医療 DX 共創プロジェクトをはじめとした共創 I P の取組を推進している。内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に新潟市を中心とする『にいがた 2km「おいしさ DX」産学官共創プロジェクト」を申請したので，採択されればこの取組も進められる。
 - ・他には，今年度，グローバル推進機構を設置し，この 3 つの柱に横串を

刺す新たな仕組みを作ったので、次年度は、これを本格的に動かしていく予定である。

- ・本学創立 75 周年を迎え、記念式典を開催するなど、これまでの振り返りと未来への総括を進めてきた。基金を募り今の時点で約 1 億円の寄附が集まっている。
- ・学内の組織改革として、内閣府の第 2 期 PEAKS 実証事業の補助を受けて、UA 制度を整備した。来年度は、実際に制度を活用する段階に移る。

○・これから「連携」が大きなキーワードになる。産官学金のほか「政」への働きかけも必要ではないか。議会などへ大学からアプローチして理解・協力を求めることで、行政への働きかけ等の支援も得られるのではないか。連携の在り方についての考えを伺いたい。

- ・産官学金が連携する従来のプラットフォームという形は、大学が委員会へ参加するなど割と消極的で十分機能していない印象があった。共創 IP は、新潟大学が産官学金連携のプロジェクトを提案し、それを社会実装していく仕組みであり、議会までは踏み込んでいないが、以前よりは一歩進んだ取組となっている。
- ・議会という点で言えば、共創 IP の刈羽村とのプロジェクトは、刈羽村が地方創生事業費の申請の際に本学のインパクトマネージャーが議会まで説明に行き、同事業費が採択され、動き始めたものである。
- ・また、地域医療 DX 共創 IP では、阿賀町と十日町をパイロット地域として地域医療の新しい作りを提案し進めているが、もう一歩進むには議会の了承も必要となるかもしれない。

○・社会との共創について、意欲的に取り組んでおり、特に共同研究・受託研究の伸びが素晴らしく、産業界・経済界からも期待されていることがわかる。少子化に向けて、リカレント教育、リスクリングの需要が高まる中で大学院改革が重要となる。社会人は大学に出向き講義を受けることが難しいと思うが、学び方の工夫などあるか。

- ・リスクリングについては、小野組との建設関係の講座、健康経営に関する講座のほか、新たに AGC と安全文化診断に関する講座もスタートし、いくつかの共同教育講座が走り始めている。今は単位履修の形だが、大学院での企業と連携した社会人入学プログラムの形などがよいのか、いくつかの多様性のある教育の形を作っていきたいと考えている。
- ・コロナ禍を経てオンライン体制が進んだ。災害医療の履修プログラムは、実習以外オンラインで受講できている。

- ・AI の高度化に対して、慶應大学では X Dignity センターを設置するなどの取組がされているが、AI への向き合い方を現時点でどう考えているか。
 - ・AI に関しては、新潟大学は少し遅れている。生成 AI が出始めた頃、学生向けには、試験のレポートへの使用は不可であるなどのガイドラインは作成したが、本来は、ポジティブにどう活用するかを示すべきだった。
 - ・本学には、ビッグデータ・アクティベーションセンター、メディカル AI センターがあり、従来からのデータサイエンスを扱っているが、申請中の J-PEAKS 事業が採択されれば、この 2 つを一緒にした組織を柱に、他分野を掛け合わせるような研究スタイルに変えていくことを構想している。
-
- ・令和 2 年 2 月から令和 7 年 1 月までの学長在任 5 年間における重点課題、重視した取組についての成果と課題について伺いたい。
 - ・就任時は、コロナ対策が中心になったが、一方で、「新潟大学将来ビジョン 2030」を作り、教育、研究、社会との共創を柱に進めてきた。
 - ・教育については、未来教育、メジャー・マイナー制、大学院改革が一つずつ形になってきたと感じている。
 - ・研究については、国際化は極めて難しいが、J-PEAKS 事業が採択されれば脳研究所を中心に進める準備をしている。スイングバイ・プログラムで、若手研究者の育成は成果が出てきているので、研究の国際化はこれから評価をいただく内容と考えている。
 - ・コロナ禍や世界の情勢が大きく変化し、これまでのロシア、中国等との交流が難しい中で、ここ数年はインドとの交流をひとつの目標として、大学間交流、学生交流など進めてきた。インド国内でトップクラスの研究業績を誇るインド理科大学院大学との連携は、日本の中では最も進んでいると思われる。
 - ・社会との共創については、5 年間で 8 つのプロジェクトがそれぞれ動くようになり、例えば、能登半島地震では、地域の防災に関する共創プロジェクトを中心に、新潟市の液状化現象のデータを本学で集めた報告書としてまとめ、市への提言や社会提言できるようになったのは成功と言える。
 - ・新学生寮は、建設費の高騰に伴い、年末に入札が不調に終わったので、改めて仕切り直しとなっている。
-
- ・今、学長の中で一番気になること、やらなければならないと考えていることは何か。
 - ・J-PEAKS 事業と内閣府事業の結果が一番気になっている。採択されれば、

研究の活性化と社会との共創に関する最後の詰めをしっかりとやりたい。
そして、大学院改革は前執行部が実現できなかったものなので、今回こそは新潟大学らしい大学院の設置を実現したい。

(2) 国立大学法人新潟大学の学長に求められる人物像（資質・能力等）について

議長から、資料2に基づき、前回継続審議となった学長に求められる人物像（資質・能力等）の改定案について説明があり、審議の結果、承認された。
(主な意見及び質疑等)

・なし

(3) その他

①令和7年学長選考・監察会議スケジュール（案）について

事務局から、令和7年学長選考・監察会議スケジュール（案）について説明があった。

(主な意見及び質疑等)

・なし